

憲照先生の手本ア・ラ・カルト(19)
(à la carte)

締切り 七月二十五日(必着)

昭和53年4月

友と交わるには
志家の二筆と
心法とす

つけペン・墨汁使用

〔読み〕 友と交わるには 愛敬の二字を心法とす

〔解説〕

友と交わるには

志家の二筆と

心法とす

※草書の字形をしつかりと頭に入れる。

◎本会は、今年で創立六十七周年を迎えます。

まだまだ世の中には、新型コロナ禍の影響で、世界中が不安の中にいます。

しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年に引き続き『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一類を四ヵ月交替で掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★友と：(書体＝草書)

貝原益軒(二六三〇～一七二四、儒者)

「愛とは人を憐れむをいう。これを悪まざるなり。敬とは人をうやまうをいう。これを侮らざるなり。人を憐れむには仁なり。人をうやまうには礼なり。これ人に交わるの道なり」と説明している。この愛敬の道は、身分低き人に対しても同様だ。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

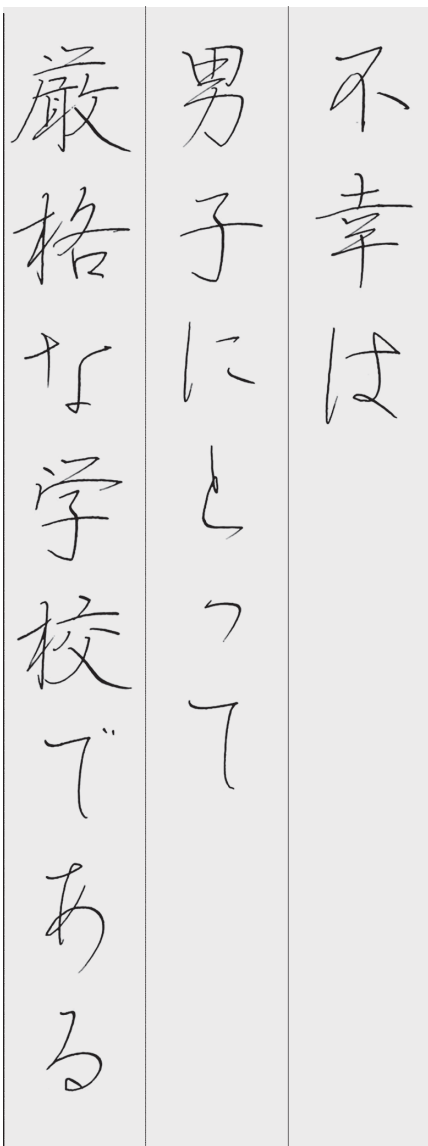
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



新井龍峰書

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝楷書
▼師範＝行書

◆8月課題予告(行草または草書)
誤解は
編みかけの靴下の
飛ばし目の如し

★不幸は：(書体＝行書)
シラー(一七五九～一八〇五)
ドイツの詩人
日本のことわざの「若い時の苦労は
買うてもせよ」とか「かわいい子には
旅をさせよ」などと同義であろう。人
生という学校の中で、不幸は厳格な訓
練をほどこす課程であり、それを優秀
な成績で卒業できた者のみが大成でき
ると言っている。ただし「男子にとっ
て」というのは、現代において「人間
において」と言い変えるべきであろう。

◆8月課題予告(行書)
世の中に
ひまある身こそ
悲しけれ

★井の中：(書体＝楷書)
莊子(中国、戦国時代の思想家。莊
子とその学統に連なる後人の著作)
井の中にすむ蛙が、海にすむ大亀に
「井戸の中はとても楽しい。君も入ら
ないか」と誘った。しかし亀は、窮屈
で泥だらけの井戸に驚き、「海はずっ
と深くてきれいだよ」と蛙に話したと
ころ、蛙はただ呆然としてしまったと
いう。
自分の狭い知識や見解にとらわれ、
他の世界を知らないことを「井の中の
蛙」というのである。

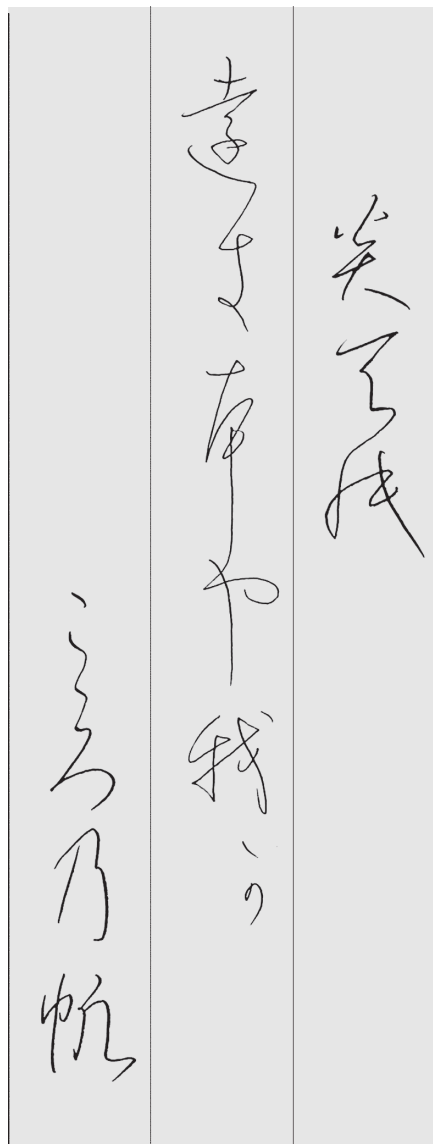
一般部かな課題

締切り 7月25日(必着)

準初段から六段まで

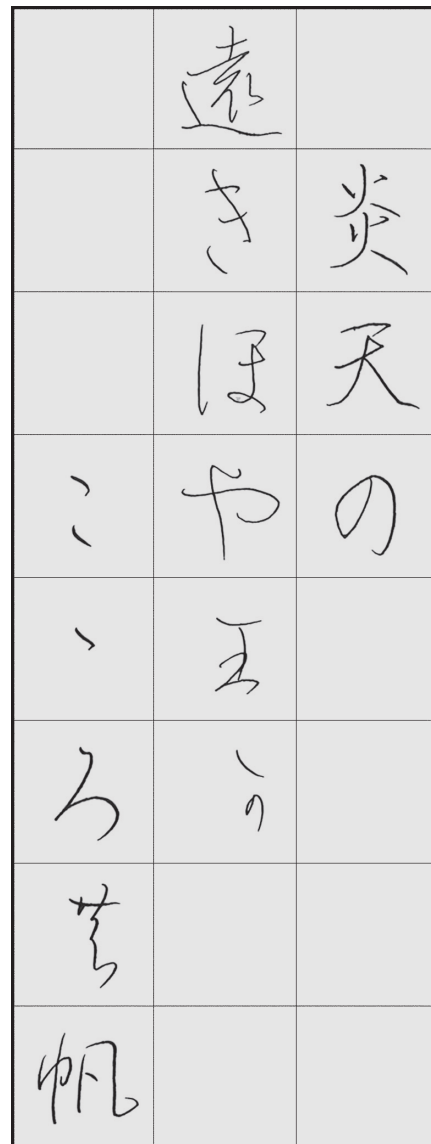
新入から1級まで

炎^能天^支の遠^本き帆^我やわがこころ^可の帆^乃



炎^能天^支の遠^本き帆^我やわがこころ^可の帆^乃

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆8月課題予告

祖母^{そぼ}山^{やま}も 傾^{かたむく}山^{さん}も 夕立^{ゆだち}かな

(山口青邨^{せいそん})

【解説】〈炎〉や〈遠〉の縦の線を中心として揃える。級位用の〈こころ〉は、続けないで中心を揃えて書いて下さい。

能^の 支^し 本^{ほん} 農^{のう} 乃^の
能^の 支^し 本^{ほん} 農^{のう} 乃^の
能^の 支^し 本^{ほん} 農^{のう} 乃^の
能^の 支^し 本^{ほん} 農^{のう} 乃^の

【古筆参考】

強さと気の弱さが入り混じっているような趣がある。

【鑑賞】昭和二〇年の作。日本の敗戦の夏、伊勢湾のほとりで病気の療養をしていた作者の心情がよくうかがわれる。〈炎天〉という強い響きの語の下に、〈遠き帆〉〈こころの帆〉とやさしい言葉を並べているところに、意志の強さと気の弱さが入り混じっているような趣がある。

【句解】晴れ上がった夏の空は燃えるように暑く、まるでその暑さに押さえつけられたような静かな海に、遠く一つの白帆が見える。あれはまるで、さびしい自分の心そのもののように、心細く、しかしまた健気で、何か懐かしいような気もする。

炎天の遠き帆やわがこころの帆
(山口誓子^{やまぐちせいし})

締切り 7 月 25 日(必着)

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイデアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

暑中お見舞い申し上げます
楽しみにしていた席書会がなくなり硬筆コンクールをより頑張ろうと思っています。
ご指導よろしく願います。
令和四年盛夏
(ご自分の氏名)

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

暑中お見舞い申し上げます
楽しみにしていた席書会がなくなり硬筆コンクールをより頑張ろうと思っています。
ご指導よろしく願います。
令和四年盛夏

※手本は水性ボールペン使用

横書き課題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

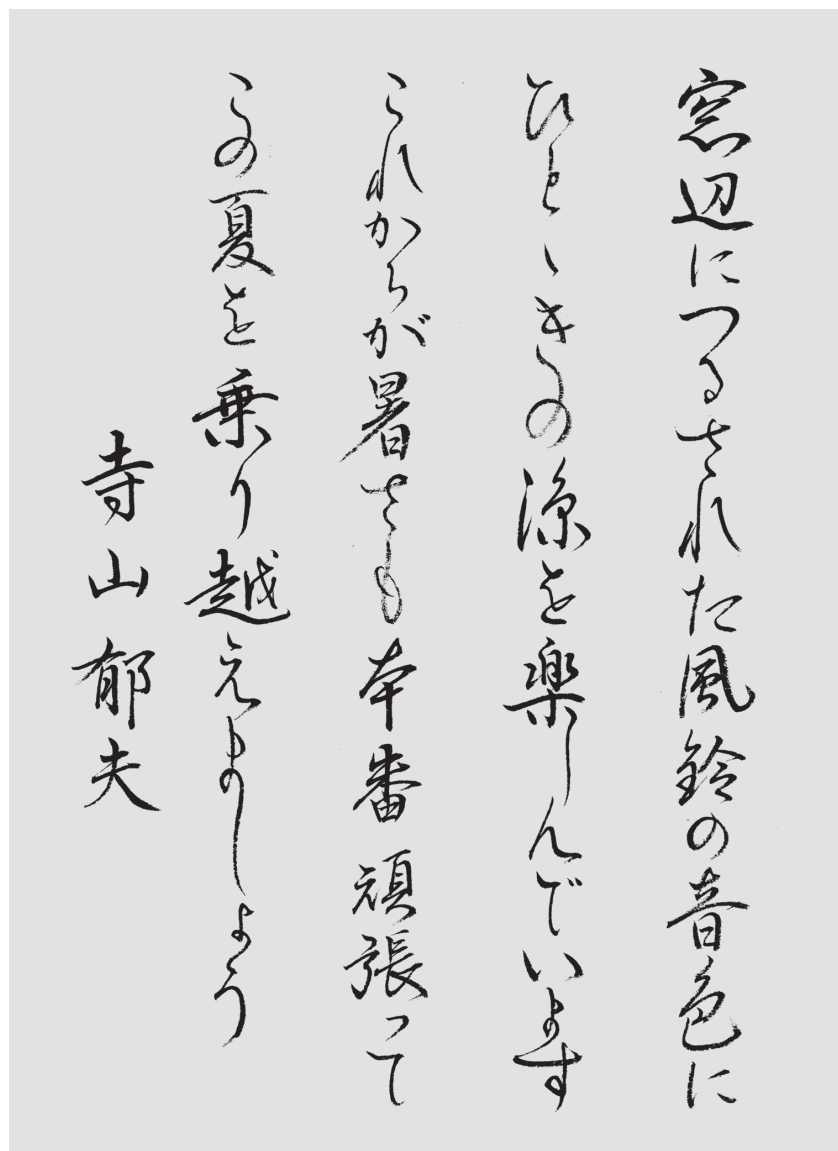
勤労勤勉の手本, 二宮尊徳の像は
近年の小学校では見られない。

京都府八幡市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

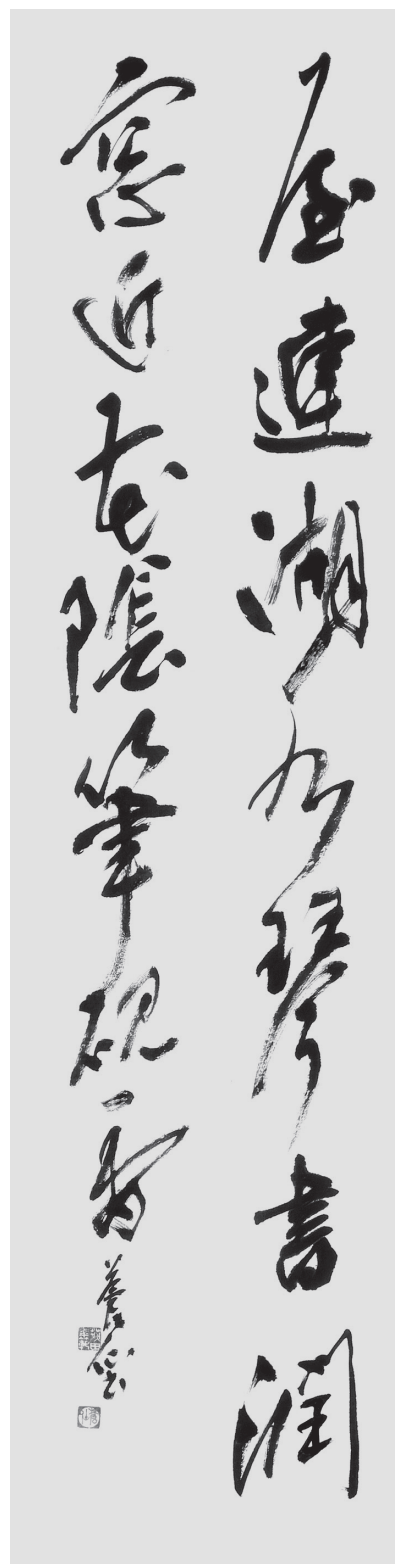
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 七月二十五日 (必着) 半切 (一二六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

おくはこすいにつらなうてきんしゅうるおい
屋連湖水琴書潤

まどはかいんにちかづいてひつげんかんばし
窓近花陰筆硯香

黄庚

〔大意〕家が湖水のそばにあるので琴や書物が湿りがち、窓は花の陰となって机上の筆や硯まで花の香りが漂う。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

一枚のために多く書いて極める。手本に近づくよう挑戦。とても大切な事。反面同じ作でも墨量の多少、遅速の変化、リズムを少し変えても価値が大きく変動する面白さ、また失敗作の中にスバラシイ技があるかも知れない。そんな作品づくりもあってよいのではないか……自分の幸せの為にする書道だから。

窓辺につるされた風鈴の音色に
ひとゝきの涼を樂しんでいます
これから暑さも本番 頑張って
この夏を乗り越えましょう
(ご自分の氏名)
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

澤

幸
寿
書

冷
逼
煮
茶
亭

れいはせまるちゃをにゐのてい
冷 逼 煮 茶 亭

〔大意〕庭や高台などに設けた小さな建物。

〔解説〕

冷 逼

煮 茶

亭

◆8月課題予告(行書)

清泉石
上流

準初段から師範まで

須田一葉臨

器 必 在
膠 雍 道

器
必
在
膠
雍
道

器 必 在 膠 雍 道

〔解説〕

〔出典〕 孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕 虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕 （括羽成）器は、必らずや膠
雍に在り。道（徳潤身は、）

器 必 在 膠 雍 道

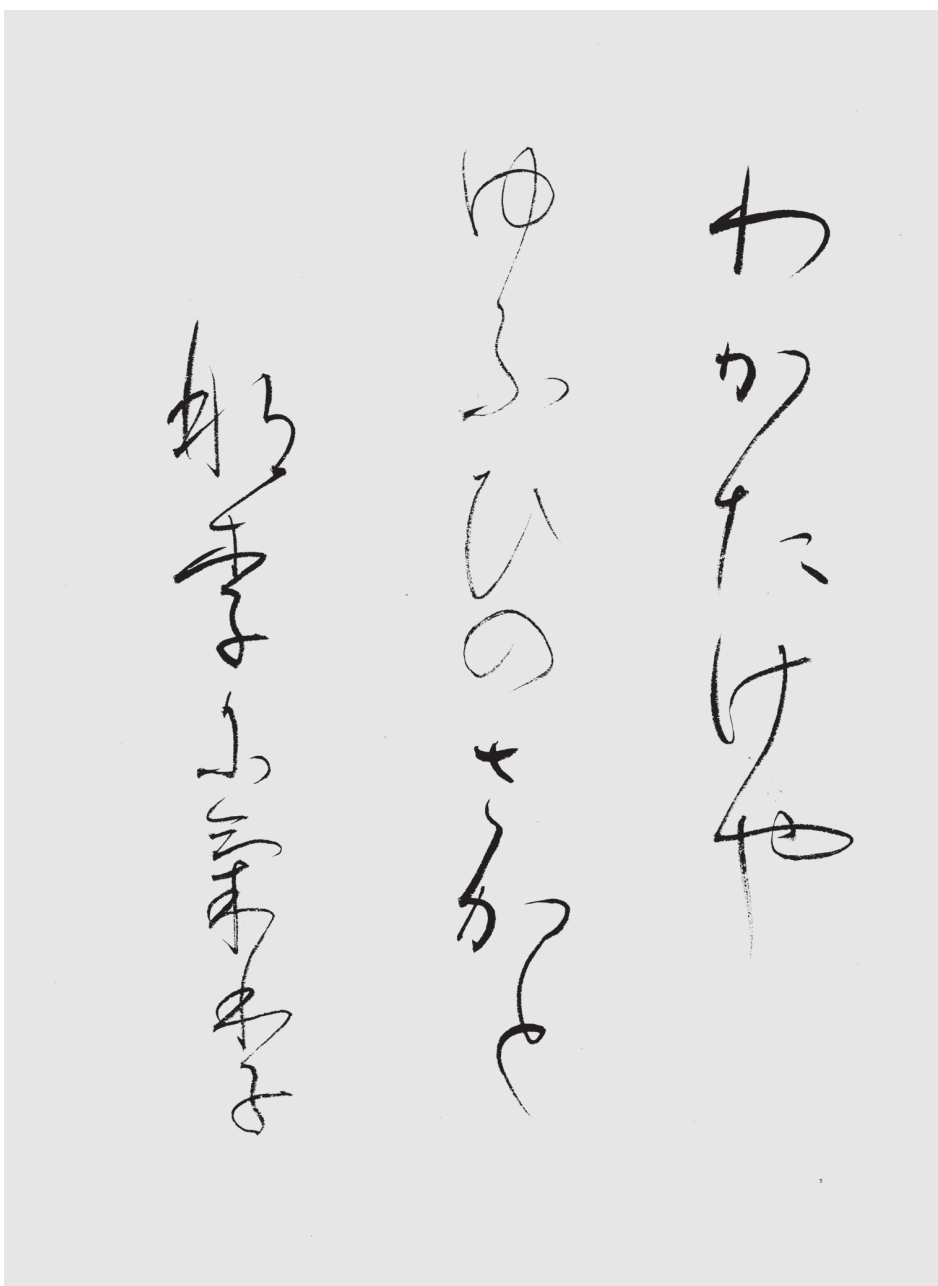
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆8月課題予告

厚顔善
不足稱

新入から1級まで

浅井機山先生書



わかたけ
やゆふひ
のさかさ
と成にけり

与謝蕪村

〔句意〕

藪には若竹が小さきまぎまに立っており、夕日
が映っている。この季節、しかもこの時刻が美し
い嵯峨であることよ、の意。

◆8月課題予告

ある時は師の手をとりて月の坂

〔解説〕

上5字は、1字の単体と2字の連綿
が2つ。

中7字は、2字連綿、単体が2字、
あと3字連綿です。

下5字は、変体仮名で書いています。
墨継ぎは、第2行の「さかと」です。
さて、1行ずつ見ていきましょう。

「わかたけや」

「わ」のタテ線は、垂直でなくやや
右に傾いています。太いヨコ線は、水
平でなく、やや右上がりになっていま
す。このように書くと1字のバランス
が取れることになります。

「かた」の連綿は、「か」の点を打っ
てユックリ回ってからほぼ直線で連綿
線を書き、突き当たって「た」の第1
画まで進みます。

「けや」の連綿では、「け」の終画が
ゆったりカーブしてから、連綿線は直
線に入ります。

「ゆうひのさかと」

かすれても慌てずに「ゆうひの」を
書きます。一息入れてから、「さかと」
で〈墨継ぎ〉して、じっくり書いてい
きます。

「那李尔気李」

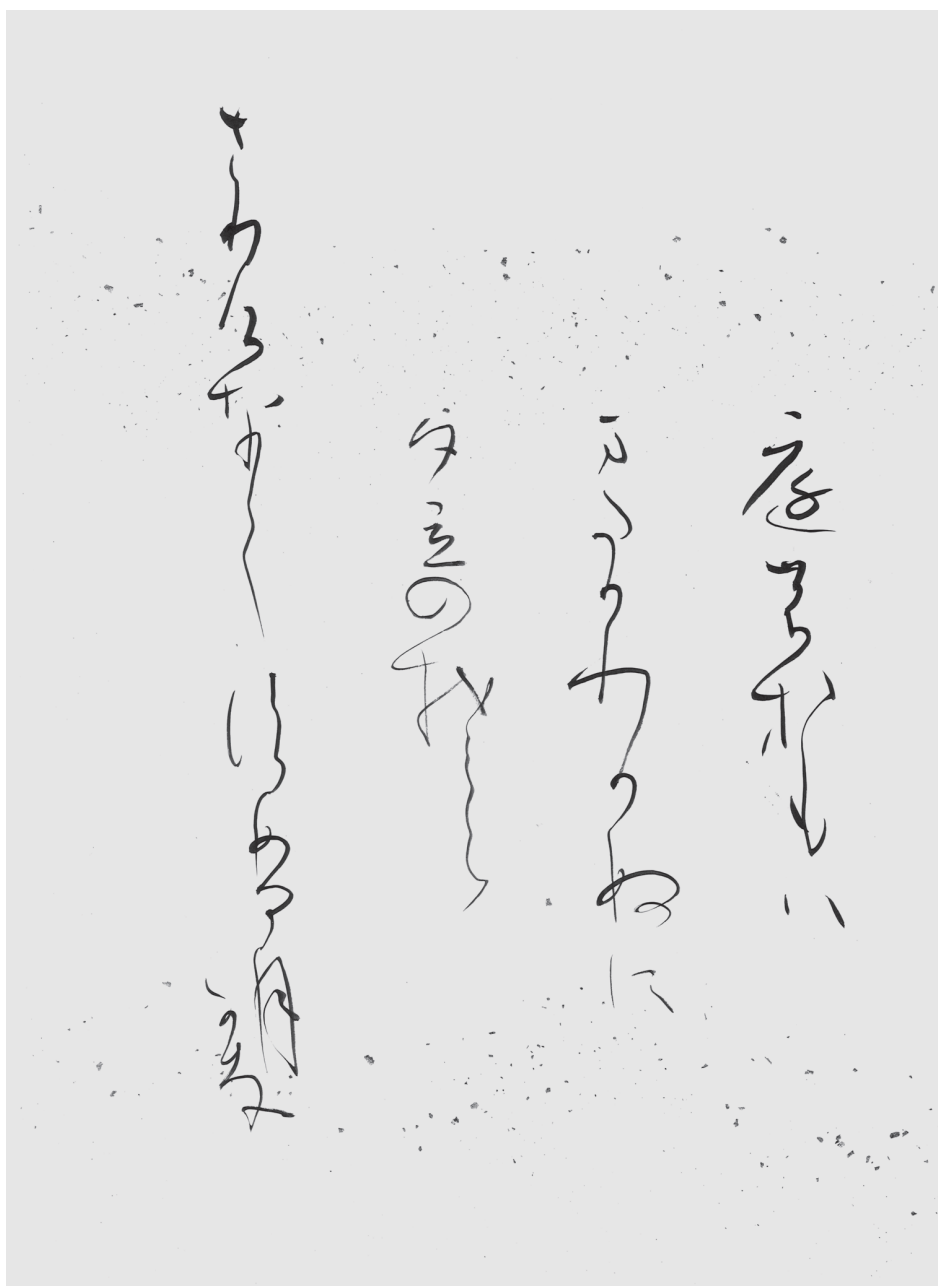
1字1字、ほぼまっすぐに書いてあ
りますから、字形をしっかりと覚えられ
ます。

「那」「気」は、〈草仮名〉です。

「李」が2つありますが、書き順が違
うだけです。漢字の〈草書〉を字典で
確認して下さい。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



庭の面はまだかわかぬに夕立の

空さりげなく澄める月かな

「新古今和歌集」夏267 源頼政

〔歌意〕

庭の上はまだ乾かずにいるのに、先ほど夕立を降らせた空は、そのような気配もなく、美しく澄み渡った月が出ていることだ。

◆8月課題予告

ふるさとの尾鈴の山のかなしきよ
秋もかすみのたなびきて居り

〔解説〕

料紙は、鳥の子（雁皮）に薄紫色の刷毛染めをしている。裾の方に「墨流し」を施し、上3分の1くらいのところに銀の砂子を水平に蒔き、墨流しの位置の水平状に金銀の砂子を蒔いています。

上の砂子にかかるかからない位置に、行頭を揃えた3行、第2行だけ墨流しにかかるかからない位置に下して溶け込ませます。第4行は長く「可奈」を添えて裾を引き締めます。さて、1行ずつ見ていきましょう。

「庭農於も八」

漢字の「庭」の草書は、いろいろな書き方があります。好きな字形を「字典」で調べて書いてみましょう。古筆（主に平安時代の仮名書きの古典）では、ほとんどが「漢字仮名交じり文」の行書や草書ですから、漢字も仮名に合うように書いています。

「万多可わ可ぬに」

書き出しの「万」は右行に大きな字があるので、逆に小さく書き出しています。

「夕立の楚ら」

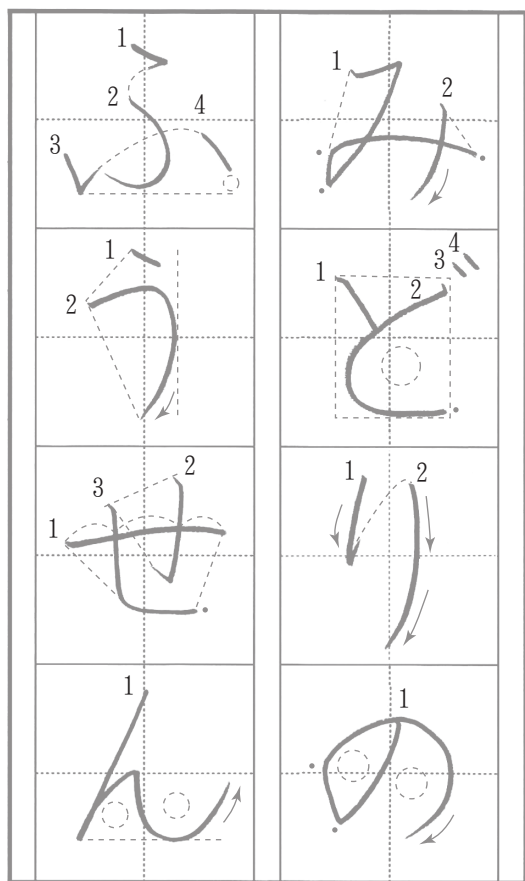
「夕立」も字典を引いて選んだ行書や草書の好きな字形で書きましょう。

「さ利介なく須める月可奈」

ここで「墨継ぎ」します。手本の墨継ぎはたいいてい途中1回だけです。

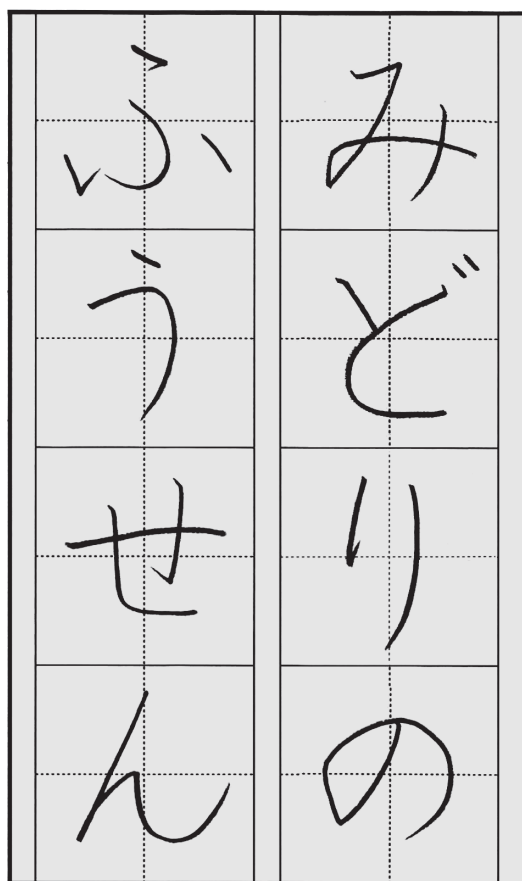
「可奈」は添えて、左余白のアキを意識し、全体の調和をはかります。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)



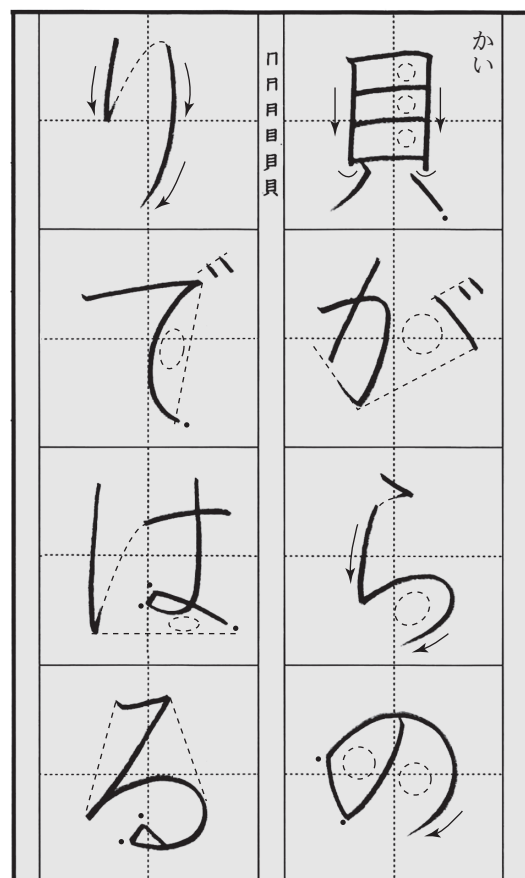
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



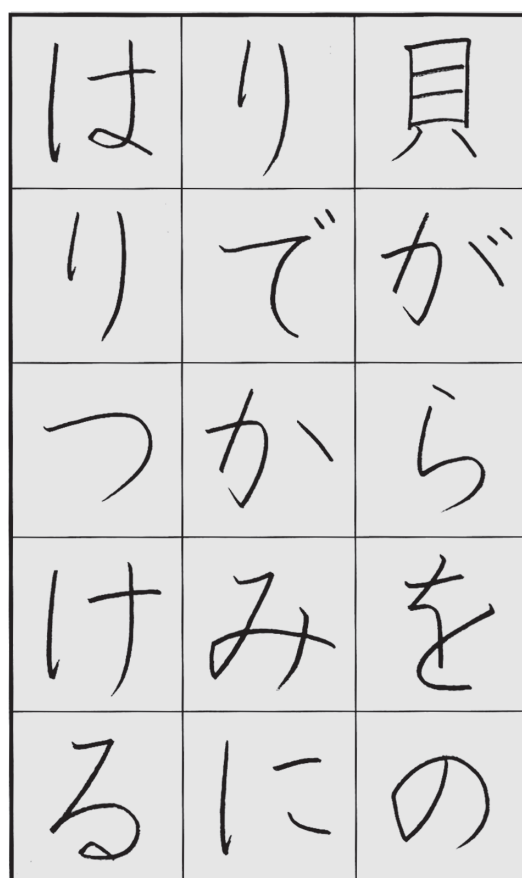
よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

を	海
ひ	で
ろ	小
う	石

新入1級

石	き	海
を	れ	で
ひ	い	丸
ろ	な	く
う	小	て

準初段以上

小二年

準初段以上

向	県
け	太
練	会
習	に

新入1級

力	け	県
を	て	大
入	練	会
れ	習	に
る	に	向

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

サツ 察	あさ 朝
が 顔	かん 観
し	ま
す	す

新入1級

察	ず	毎
を	朝	日
し	顔	欠
ま	の	か
す	観	さ

小四年

準初段以上

ソウ 想	ゾウ 像
イ 以	ジョウ 上
うつく(しい) 美	カイ 海
テイ 底	ケ(しき) 景

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

※景色Ⅱ単語としてこのように読みます。
解説(よく見て習いましょう)

海	上	想
底	に	像
の	美	し
景	し	た
色	い	以

小五年

(全員)

小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

砂	小
糖	麦
作	粉
	卵

解説(よく見て習いましょう)

ツ	と	小
キ	砂	麦
丨	糖	粉
作	で	と
る	ク	卵

小六年

(全員)

の	美	織
民	し	細
族	い	な
衣	異	柄
装	国	が

中二・三年 (行書)

替	部	気
え	屋	分
を	の	転
す	模	換
る	様	に

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 や 矢 川 智 水 書

※七夕＝単語としてこのように読みます。

◎お手本はえんぴつ使用

と	な	字	短	七
書	り	が	ざ	夕
き	ま	上	く	の
ま	す	手	に	夜
し	よ	に		
た	う			
	に			



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はつけペン使用

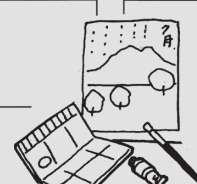


しめきり 7月25日（必着）

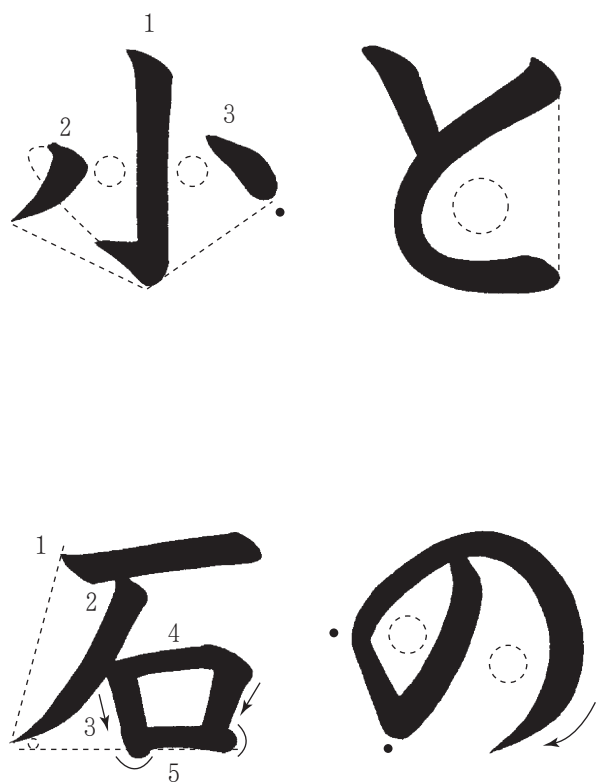
習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 なか むら すい えん 書

送	祖	絵	書	暑
り	父	手	き	中
ま	母	紙	方	見
し	に	に	を	舞
た		し	習	い
		て	い	の




幼年／小二年
酒井智仔書





小三・小五年
水野碧友書

中二
民族衣装

小麦粉

中一
気分転換

麦粉
気分
民族
衣装

※行書は線の連なりを大切に！

小六／中二・三年
玉樹小華書